

東光まちづくり推進協議会 会議録 令和6年度 第2回

会議概要	
日時	令和6年12月12日（木曜日）午後6時00分から午後8時00分まで
場所	東部住民センター 2階 大集会室
出席者	委員（15名、正副会長以外は50音順） 原田会長，玉田副会長，赤坂委員，阿曾沼委員，五十嵐委員，兼松委員， 徳光委員，中島委員，中村委員，本間（健）委員，本間（雅）委員，牧野委員， 増子委員，松原委員，横山委員 （欠席 齊藤委員，高橋委員，中田委員，林委員） オブザーバー 菊池 地域まるごと支援員 事務局 地域活動推進課 岩崎課長 東部まちづくりセンター 鈴木所長，武田主査
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 地域まちづくり推進協議会の在り方について 資料2 東光まちづくり推進プログラム 資料3 とうこう新聞発行事業について

議事の内容

1 開会

協議事項の検討に入るまで，事務局が進行を行った。

2 協議事項

(1) 地域まちづくり推進協議会の在り方について

資料1に基づき、地域活動推進課岩崎課長より説明があった。

【会長】

担い手不足、いくつもの組織役員（まち協、地区社協など）を兼務する人が多いなどの課題があるが、東光地域は広く、ひとつの市民委員会ではカバーできないので、それを補うような事業展開ができればよいのでは。いずれにしても担い手の不足が大きな課題といえる。

【委員】

まち協（市）が何を求めているのか不明。地域特性を活かしたまちづくりと言っても、それぞれの市民委員会エリアで地域特性が異なる部分もあるかと思う。

【事務局】

まちづくりは地域主体で行うものという考えが始まり。町内会が地域活動を行う最も身近な組織であり、その上部組織として市民委員会があるが、それらの他、地域にある様々なポテンシャル（企業や学校、消防団など）の横のつながりを持ち、それぞれの持つ課題を共有し協議する場、課題を解決する取り組みは何かを話し合う場としてまち協が始まった。

まち協で協議し課題を明らかにし、それを解決する活動を地域が自主的に行う、いわゆる自立型の地域活動を展開することを行政が望んでいた。

【委員】

地域活動を行う団体だけではなく、企業なども含めた横のつながりが地域の財産であり、それをつないで課題解決を図っていくということでしょうか。

【事務局】

おっしゃる通り。例えば、小中学校が地域内に多いのなら、子どもへの支援をどうするか、高齢者が多い地域なら見守りが必要ではなど、自分たちの生活している地域をよりよくするために、地域の企業などの協力を得ながら活動する、これが一番の地域づくりと考える。この後プログラムの説明があると思うが、このプログラムに掲載されているものが地域で活用できるものとなる。

【会長】

改めてまちづくりは難しい問題だと感じる。各事業はそれぞれ実行委員会を立ち上げて行っている。各実行委員会同士で意見交換を行う場がないと思うので、それをまち協が補う役目もあるのでは。

【委員】

自身も実行委員会のメンバーとして活動しているが、当初から比べると地域住民の興味関心が薄れてきていると感じる。チラシの配布など行っているが、参加者の集まりが悪い。事業の見直しは必要と思う。小さな組織で活動することも大事。

他に各委員から発言はなく、資料のとおり確認された。

(2) 東光まちづくり推進プログラムについて

ア 東光まちづくり推進プログラムの改訂について

資料2に基づき、事務局より説明があった。改訂について各委員から発言等はなし。

【会長】

いくつかの実行委員から、今年度の活動報告をしていただく。事業に対する思いなども含めてお願いしたい。

【委員（東光消防団活性化実行委員会）】

10月19日東部住民センターでAED講習会を行った。講習後には修了証を発行した。今後とも機会があれば多くの方に受講してもらいたい。

【会長】

参加人数は12名となっているが。

【委員】

定員の上限の関係からそのようになった。講師1名あたりの人数に限りがある。

【会長】

防災センターで30人くらい規模のAED講習を受講したことがある。例えば、AEDを設置している企業や学校などからは2名参加、などという募集のしかたはどうか。工夫することで人の集まりもよくなると思う。

【事務局】

中学生以上から受講可とのことだったので、今回は東明中学校にも案内を配ったが、参加には至らなかった。

その他発言等はなし。

【委員（東光(U・D)チクリンピック実行委員会）】

11月17日開催のポッチャCUPを目標にして、9月と10月にアモールで体験会を開催した。今年は、千代田小学校の6年生4名が実行委員となって活動した。ポッチャCUP当日は、16チーム32名の参加、当日手伝いをしてくれたお母さん達なども含めると全体で40名くらいの規模となった。地元企業からの協賛もあり、大会は大盛況だった。アンケートでは、次年度開催希望の声も多かったので、できれば続けたいと思う。

子ども達が6年生のため、次年度実行委員となる後輩につないでもらいたいということ、もしくは中学生になっても引き続き参加してもらえるように調整中。千代田小だけではなく、他の小学校からも参加し、共同で活動できればなおよいと思う。

【委員（プレイヤーとして参加）】

千代田小の児童が中心となり、大会運営をしていたことに感心した。審判なども行っていた。高齢の参加者も多くいたが、子どもと高齢者の交流は、町内会で実現するのは難しい面がある。人も集まらない。とても良い取り組みだと思い、町内会の総会でも紹介させていただいた。

【会長】

若い世代が活躍できる活動はとてもよいと思う。

その他発言等はなし。

【委員（茶道を通して心を育む「WAの学校」実行委員会）】

全7回開催で残り1回。啓明地区センターを会場として、平均30名ほどの参加がある。8月に開催した茶会は、スタッフも含めると100名ほどの参加があった。11月には和菓子作り体験を行ったが、定員を超える申込みがあった。

今後の課題としては、学生ボランティアなどを活用し託児を行えるようになれば、より多くのお子さんが参加しやすくなるのではと感じている。

【会長】

スタッフは何名か。

【委員】

スタッフは約10名。

【会長】

人数は足りているのか。

【委員】

お茶を教える人数は足りているが、小さいお子さんに対する託児の手が足りない。この部分の手立てを考えなければと思う。

【会長】

とても素晴らしい取り組みだと思う。

その他発言等はなし。

【委員（遊び場「トントン村」実行委員会）】

トントン村は、東部東陽町内会館で月2回行っている。今年度はこれまで16回開催し、子どもの参加者は延べ260人、実行委員やボランティア、親御さんなども含めると400名を超える。7月から龍谷高校のインターアクトクラブの生徒がボランティアとしてお手伝いをしてきている。高校生との鬼ごっこが子ども達の楽しみとなっているようだ。鬼ごっこは、年齢的に実行委員が対応することが難しいので、大変助かっている。

開催スケジュールについては、案内チラシを作成し、近隣の小学校へ配布しており、認知度が上がっていると感じている。

【会長】

高校生ボランティアはとても素晴らしい取り組みだと思う。

その他発言等はなし。

イ 東光まちづくり推進プログラム（とうこう新聞発行事業）について

資料3に基づき、事務局より説明があった。

【会長】

どんな内容を掲載するのか、実行委員の人数、この辺りが話し合いのポイントとなるが。

【委員】

まち協の活動について知ってもらうことが目的であれば、A3両面程度で事業を紹介し、写真を多めに掲載するのがよいと思う。

【事務局】

今年度からはA4カラー両面程度の予算措置となっている。また、まちづくり推進協議会のホームページは事務局で作成しており、まち協事業の情報を随時更新している。とうこう新聞は補助金を活用した事業なので、何を掲載するか等は実行委員会ベースで決定していく必要がある。

【委員】

事務局としては、実行委員の数は何名程度を想定しているのか。

【事務局】

4～5名程度がよいのでは。

【委員】

発行部数はどのくらいか。

【事務局】

2,500部ほど。町内会の班回覧や地域のスーパーなどに置いている。

【委員】

とうこう新聞をどれだけの方が見ているのか。本当に必要か。

【会長】

掲載方法などの工夫は必要だと思う。実行委員のメンバー選出については、本日の内容を踏まえて、第3回協議会の際に決定したいと思う。

その他発言等はなし。

3 その他

事務局から次の3点について説明があった。

1. 東光まちづくり連絡会について
2. 今年度発行のとうこう新聞について
3. 第3回協議会日程について

4 閉会